

様式第3号（第12条関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成26年度第1回北はりま定住自立圏共生ビジョン会議
開催日時	平成26年11月18日（火） 午前11時00分～午後0時5分
開催場所	西脇市役所 特別会議室
出席委員の氏名又は人数	委員15名（うち代理出席1名）
欠席委員の氏名又は人数	委員2名
出席職員の職・氏名又は人数	オブザーバー8名、事務局4名
公開・非公開の別	公開 （北はりま定住自立圏共生ビジョン会議運営要綱の制定後）
非公開の理由	
傍聴人の数	0人
議題又は協議事項	①北はりま定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について ②平成26年度実施予定事業について ③意見交換 ほか
会議の記録（概要）	
発言者	
西脇市長	<p><b>1 開会</b></p> <p>○ 司会進行：西脇市ふるさと創造部長</p> <p><b>2 西脇市長あいさつ</b></p> <p>○ 多可町の副町長は西脇市民であり、西脇市の副市長は多可町民である。隣接した地域で副首長がそれぞれクロスしているのはあまり例がないのではないかと考えているが、両市町は歴史的にも深いつながりがある。</p> <p>○ 学識経験者をはじめ、委員にご就任いただいた方には厚くお礼を申し上げる次第である。また、オブザーバーとして兵庫県市町振興課、また北播磨県民局からも出席をいただいております、重ねてお礼を申し上げたい。</p> <p>○ 地方創生ということで、人口急減等の課題に対応するため「まち・ひと・しごと創生本部」が設置され取組が進められようとしているが、この定住自立圏もその課題解決の手段の一つである。</p> <p>○ 西脇市と多可町は「北はりま定住自立圏共生ビジョン」に基</p>

づき様々な取組を進めているが、はやくも4年が経過することとなった。本日の会議では、委員の皆様には取組状況の確認をしていただくとともに、それぞれの分野からご意見をいただければと考えている。

- また、平成27年度は共生ビジョンの最終年度となるため、来年度は委員の皆様のご意見をいただきながら、新たなビジョンの策定に取り組んでいきたいと考えている。ご協力をお願いしたい。

### 3 委員等出席者の紹介

- 出席委員による自己紹介
- オブザーバーと事務局職員の紹介

### 4 会長、副会長の選出

- 共生ビジョン会議条例の規定に基づき、会長に兵庫教育大学大学院教授の浅野良一氏を、副会長に西脇市多可郡医師会会長の藤田 位氏を選出。
- この後の会議進行は浅野会長が務める。

### 5 北はりま定住自立圏共生ビジョン会議運営要綱（案）の制定について

- 会議資料（4～9ページ）に基づき、運営要綱案の概要を説明する。
- 質疑等は特になく、原案どおり承認された。

### 6 定住自立圏構想の概要について

- 会議資料（10～12ページ）に基づき、事務局から概要を説明する。
- 質疑等は特になし。

### 7 議事

#### (1) 報告事項① 北はりま定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について

- 会議資料（13～16ページ）に基づき、事務局から進捗状況について説明。その後質疑応答。

委員

- ・ 7番の病病連携推進事業だが、例えば西脇病院などにかかったとき、病院とかかりつけ医の間で検査が二重になったりとかせず、うまく連携がとれているのだろうか。

市担当

- ・ かかりつけ医と病院との連携であるが、かかりつけ医から病院へは診療情報の提供書により詳細な情報を病院に提供し、それに基づき病院で継続して診療を行うという態勢を取っている。ただ、開業医では大規模な医療機器は揃えておられないので、あらためて西脇病院なりで詳しく調べられるということが

<p>会 長</p>	<p>発生するため、それが患者さんにとっては二重のように感じられるかもしれないが、そのような形で再度詳しく検査を行うことがあるということでご理解いただきたい。</p>
<p>市担当 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 49番の職員の人材育成確保事業のうち、人事交流という文言が入っているが、現在、人事交流は行っているのか。</li> <li>・ 現在のところ人事交流は行っていない。</li> </ul>
<p>市担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 37番の学校給食の地産地消推進事業であるが、過去には学校給食の材料にしてほしいということで野菜作りをされる農家も多々あったが、給食センターと個々に契約を結びやってこられたと思っている。現在、西脇市と多可町とが連携を図りながら食材の調達もされているかと思うが、現在調達をしている具体的な品目と、農家の数が分かれば教えてほしい。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西脇市の状況であるが、現在の地元産率は21%と給食センターから報告を受けている。現在、生産者を中心とした部会を作り、新たに取組を進めていきたいと考えているが、多可町との具体的な連携にまでは至っていない。ただ、カレーの材料となるようなじゃがいも、たまねぎ、にんじんなどは出来るだけ地元で供給したい。米についても、「地元の日」などを設定する中で、地元産率を高めていく努力を続けていきたい。</li> </ul>
<p>市担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多可町と丹波市をつなぐトンネルが開通し、柏原方面へ向かう人は多くなったが、西脇ではカーナートが閉鎖するなど、西脇方面に出向く魅力が薄れているように思う。西脇多可に丹波市の方を迎え入れる努力は出来ないものか。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの分野ということではなく、この共生ビジョンそのものの話になってこようかと思う。国では、まち・ひと・しごと創生ということで、地方の積極的な取組を支援しようとしているが、その中で、自治体は人口ビジョンや総合戦略を定めることとなっている。総合戦略では、まちの魅力を高め、しごとを作る、そして人の流れを作るということに主眼が置かれているが、その策は各市町で独自に、主体的に考えなければならない。また、まち・ひと・しごと創生の中では、定住自立圏制度も活用しながら連携した取組を進めていくべきともされており、今後はいかにして地域の魅力を高め、定住人口、交流人口の増加を図っていくというのが大きな課題となる。</li> </ul>
<p>副町長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トンネルのおかげで、柏原方面へ行くのはとても便利になったと聞くが、こちらに足を向けていただくことがないのかなと気になったので質問させていただいた。</li> <li>・ 清水坂トンネルのことであるが、開通後丹波市へのアクセスがとても良くなり、ショッピングセンターなどもあることからそちらへ行く人が増えたという現象も生じている。逆に、舞鶴若狭自動車道の氷上インターから阪神間の人を多可町に呼んでくることも検討しなければならない。トンネルのそばにあるラベンダーパークの集客数が非常に増えたということもあるので、より多くの方に多可町に来ていただきたいと思う。多可町</li> </ul>

	<p>でもまち・ひと・しごと創生本部を立ち上げ、今後の方策を住民の皆さんの意見も聞きながら考えていくこととしている。トンネルが出来たことをマイナスではなくプラスにできるよう頑張っていきたい。</p>
<p>会 長 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ トンネルが出来たことをいい意味での危機感につなげていただき、地方創生の取組も積極的に進めていただければと思う。</li> <li>・ 42番の空き家等情報バンク制度であるが、多可町ではすでに運営されているとのことであり、どのぐらいの方の定住に結びついたのかお聞きしたい。また、西脇市ではいつごろを目途に実施されるのか、また多可町との連携をどのようにされるのかをお聞きしたい。</li> </ul>
<p>町担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多可町の状況であるが、これまでに申し込みは12件ある。バンクの登録件数は4件となっている。</li> </ul>
<p>市担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西脇市では制度はないが、今後は起業支援や就農支援ともからめて考えて生きたい。スイーツファクトリー事業で、就農支援をする研修生2人のうち1人が空き家に住んでおられる。このように、単なる空き家の提供ではなく、就農支援等とセットで考えるのも一つの方法とと思っているので、今後、まち・ひと・しごとの総合戦略を作っていく中で、空き家や空き工場活用活方策も探っていきたいと考えているところである。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 起業支援という話があったが、現在、空き工場や空き店舗も増えている。そのような中で、起業・創業支援を西脇市と多可町とが連携して行い、そこに商工会議所などもからんでいき、支援ができればと考えている。</li> </ul>
<p>会 長 市担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三木市では中小企業サポートセンターを設置し、創業支援をされているようであり、実績もあげられているようである。</li> <li>・ 企業誘致も大事であるが、地域内での創業の環境づくりもこれからは必要だと考えている。三木市は中小企業のサポートという形で先行されているが、国の産業活力強化法とセットで取組を行っている。西脇市でも中小企業基盤整備機構や経済産業省、商工会議所等と連携し、中小企業向けのものづくりサポート等の説明会なども実施しているが、11月には兵庫県の新産業創造研究機構（N I R O）とも包括協定を結び、圏域内の中小企業と研究機関等との連携をサポートする枠組みを作ったところである。今後は起業という分野への様々なサポートが必要となってこようと思うが、そのための環境づくりを多可町とも連携しながら進めていきたい。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 41番のアンテナショップであるが、多可町のそれは神戸市内のどこにあるのか。また、都市部での情報発信はいいことだと思うが、西脇市ではアンテナショップは出されていないのか。また、アンテナショップの活動状況についてもお聞きしたい。</li> </ul>
<p>町担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多可町では垂水商店街にアンテナショップを出店している。また、元町商店街には、北播磨県民局による北播磨おいしんぼ館もある。垂水のアンテナショップは週3日の開館だが、今年</li> </ul>

市担当	<p>度からおいしんぼ館がそれ以外の曜日に出店することとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>西脇市には独自のアンテナショップはないが、北播磨おいしんぼ館を中心にアンテナショップ機能を持たせているというのが現状である。11月29日には「北はりま元気市」という物産展も開催されるが、そのようなイベントを通じて情報発信を行っているところである。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市部への情報発信が定住に結びついていくのではないかと考えるので、ぜひ力を入れて進めていただきたい。その中で、空き家バンク等の情報もあわせて発信しながら定住につなげてほしいと思う。</li> </ul>
<p><b>(2) 報告事項② 平成26年度実施予定事業について・8 意見交換</b></p>	
<p>○ 会議資料（17ページ）に基づき、事務局から事業の概略を説明。その後、意見交換。</p>	
会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も定住自立圏構想の中で様々な取組を進めていくことになるが、今の説明内容も踏まえ、今後こんな取組をすればいいのではないかというご意見も含めて、委員の皆さんからご発言やご提案をいただきたいと思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>西脇市内の施設と、多可町内の施設による交流事業ができないかということをご意見をこれまでから申し上げてきたところである。また、西脇多可の新人高校駅伝も住民パワーにより続けられてきているが、西脇多可をアピールする一番大きなイベントだと思っているし、さらに昨年は西脇工業高校が甲子園にも出場し、非常に大きなPR効果があったが、そのような機会をとらえ情報発信をしていくこと、また交流をしていくことが大事かなと思っている。また、文化財の交流というのも本年度実施事業にあがっているが、情報発信を一層進めてもらいたい。このように、イベントの情報発信、また住民への情報提供の方法をしっかりと考えていただきたいと思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財をはじめ、様々な分野において西脇市との交流を深められるようにしていただきたいと思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>22番目の北播磨地場産業開発機構支援事業については、県や市からもたくさんのご支援をいただいている。播州織は、震災の頃円高で80円を割った段階でもう輸出はだめだろうということになったが、円高円安に一喜一憂せずにやっていけるようにしないといけないということで、国内向けに転換してきた。この事業では、インターンシップという形で1人を海外に派遣しようということでも人選をしており、年明けには渡米することになると思う。播州織に限らず地方経済は疲弊しているが、やはり播州織が復活しないと地域経済の元気が出ないということで、今後は人材の育成も進めながら輸出環境も整えていき</li> </ul>

	<p>い。また、先日、第2回の官兵衛まつりが終わった。テレビ放映も終わることとなるが、来年以降も続けていくことによって地域を活性化させていくのも大事だと思う。</p>
<p>会 長 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材の派遣はどこにされるのか。</li> <li>・ ニューヨークに派遣する。アパレル関係が密集している地である。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定住自立とは、若い人たちが定住し、地域が自立していくことだと思うが、そのためには地域の活力が大事だと思う。それは経済の活性化だと思うが、若い人が定住しようと思っても働く場がないということもあり、結局職場に近い場所に住むということになってしまう。多可町には従業員が300人を超えるような大企業はないし、地方には従業員が20人以下の小規模な事業所がほとんどである。しかし、そのような小規模な事業所で雇用が発生するが、事業所が元気になれば税収の増にもつながるし、それが地域の元気につながるとも思っている。空き工場、空き店舗や空き家を活用しながらの、起業・創業支援が一番大事になってくるのかなと考えている。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は消防団にも入っているが、消防無線のデジタル化ということで、消防団が無線の交換の費用などで困ることも出てくるかもしれないので、例えば携帯電話等を活用した連絡体制が作れないかと思うところである。また、消防団に入る若者が減っているが、消防団がどんなものかと紹介する広報が足りていないのかなとも思っており、市町の方で消防団に対する理解の促進を進めてほしい。地域で活躍する若者も減ってきているので、そういう方がいれば私どもにぜひご紹介いただければと思う。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先ほどスイーツファクトリーの話もあったが、就農支援について市の方でも大変ご努力いただいております。この事業も西脇多可が連携する形で拡大していただければと思う。また、西脇多可で66,000人の人口の中で、農家の数が2,000、専業農家の数は200とも聞いているが、専業農家がいかに収支を上げていくかということを考えなければならない。農業大学や農業高校の卒業生も、農協などに就職はできても就農は出来ないという状況だと思う。例えばイチゴに限って言うと、県の農業改良普及センターでも栽培管理指導は十分にいただいているが、大規模農家の経営指導が不足しているとも思っており、指導者の人材育成にも力を入れていただければと思う。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 播州百日鶏のブランドを守りたいと一生懸命頑張っているが、働く場所がなく、生計が立てられなければ定住もないと思っているので、自分たちの活動がそこにつながればとも思っている。大阪の焼き鳥屋さんが私にお出合いしたいということで見えられたが、その方が播州百日鶏と心ずけてもいいというくらい惚れ込んでおられた。しかし、地元にはなかなかその良</li> </ul>

	<p>さが理解されていない。大企業で働くのもいいが、自然の中で鶏を飼い、生計を立てていくのも一つの生き方かなと思う。そういう魅力を感じられるブランドであればいいなと思っている。また、シカ肉の有効活用についても、経営が成り立たなければなり手もなくなると思うので、経営能力を磨いていく中でさらなる活用につながればとも思っている。</p>
<p>委 員 市担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西脇市で近畿観光まちづくりコンサルティング事業が開始されると新聞で見たが、その中で播州織の観光資源化という内容が出ていた。どういう内容なのかお聞かせいただきたい。</li> <li>・ 国の観光アドバイザー会議というものに西脇にお越しいただき、観光資源について様々な観点から提案をいただき報告をいただくものである。その中で、播州織工場について有効な観光資源であるとの提言をいただいた。以前、西脇市で播州織総合素材展を行った際も、一般の方が参加できる工場見学ツアーが実験的に実施されたこともあるし、田園空間博物館でも、播州織を観光素材としたバスツアーをしたいとのことで業界と調整されている。富岡製糸場は世界遺産になったが、日本が培ってきたものづくりや産業を見ていただくのも観光資源として有効ではないかと考える。今後、お金が落ちるような仕かけ作りが必要となってくると思う。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多可町でまちの駅の立ち上げに関わり、観光交流協会としての事業所を持っている。県下では、相生市にまちの駅が点在しシステム化されており、多可町でも取り入れたいと思っている。まちの駅は観光交流協会の出張所も兼ねており、コンシェルジュを1人置いて観光客を案内している。この4月からは、ココロン那珂という施設の運営も任されているが、土日にはレストランで待ち時間が出来るくらい人が多くなった。そこでは地元産の無農薬野菜や米を中心とした食事を提供しており、先ほど話があった播州百日鶏のメニューもある。多可町には自然がいっぱいであり、紅葉シーズンでもあるので市外からのお客さんも多いが、残念ながら地元の人あまり見に来ない。婚活の番組で紹介されたおかげで、少しは地元にもきれいな場所があると認識された程度であり、もっとPRをしていかなければならないと考えている。清水坂トンネルについても、多可町から丹波市へ行かれる方は増えたが、来ていただく方も頑張らないといけない。フェイスブックなども利用しながら観光のPRもしているが、最近のお客さんは食事のときに写真を撮られ、それがフェイスブックで広まっていくということもあり、今後はそのような層もうまく取り込んでいきたい。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度、田園空間博物館では県からの補助をいただいてホームページを充実させており、英語・中国語・韓国語も表示出来るようになってきている。外国人にも来てほしいということで、2020年には東京五輪があり、京都や神戸には人が来るかもしれないが、北はりまにも足を運んでいただきたいと思って色々な</li> </ul>

	<p>企画をしている。西脇多可のみならず、北播磨地域全域で取り組める企画があれば来てもらえる機会があるのではないかとも思い、頑張っている。自分たちの地域を活性化させるために勉強していきたい。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北はりま消防本部が移転し、西脇消防署も移転する、多可消防署も耐震強度が不足しているということであるが、消防無線をデジタル化することによりサイレンの吹鳴がなくなるとも聞いている。その経緯は分かるか。</li> </ul>
<p>市担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイレン吹鳴については、モーターサイレンで火災発生時に住民に周知しているが、現在、無線の電波を使って鳴らしている。しかし、平成28年5月末にはアナログ無線の電波の使用が出来なくなるので、その代替手段を確保しなければならない。現在、西脇市では防災行政無線を運用しているが、その電波でサイレン吹鳴を継続して実施するという事を考えている。ただ、今後は、モーターサイレンを継続して使用するのか、または防災行政無線の屋外拡声子局でもサイレン吹鳴が出来るので、どちらかを使って今までと同じようなサイレン吹鳴をするということで検討している。</li> </ul>
<p>町担当</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多可町では、平成28年5月以降もサイレン吹鳴による情報伝達が出来よう、今年度調査を行う予定としており、27年度にどのようにサイレン吹鳴をするか、現在検討中である。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民からの要望であるが、モーターサイレン並みの音の大きさでないと、消防団への伝達は不可能ではないかと思っている。できるだけ来年度で検討していただきたい。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多可町は西脇市以上に中山間地域が多く、いかにして住民の安全・安心を守るかということに精力を注いでいるが、今の消防関係の話もしかりである。集落単位の自主防災組織も限度があるので、常備消防と自主防災組織の連携については、サイレンによる伝達が必要不可欠と考えているので、しっかりと検討をお願いしたい。消防も、広域化のメリットを活かし計画的に充実を図られているが、安全・安心の均一化という点で見ると、中山間地域への対応についてもあわせて考えていただきたいと思う。46番の再生可能エネルギー導入推進事業については、太陽光発電が目玉のようであるが、全体の計画の中においては、木質バイオマスの利活用についても山の整備や災害防止という観点からも重要だと思う。また、自然を壊さないという見地からであるが、小規模な水力発電についても地元関連で出来ることの一つかなという気がする。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清水坂トンネルの話が出たが、短期的にはどちらかが多い少ないという話にもなるが、長い目で見れば、トンネルをとおして交流人口を増やしていく、そして、色んな種類のイベントをとおしてお客さんを誘致するという事を考えていくべきだと思う。また、森林組合としては、地域の森林整備の担い手になるという役割があり、路網の整備や間伐などを行っているが、</li> </ul>

<p>会 長</p> <p>事務局</p> <p>副町長</p>	<p>現在、里山整備にも非常に力を入れている。里山を整備することにより公園風になり、非常に景観が良くなるので、これからは里山整備をさらに進めていきたいと考えている。憩いの場として利用していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>皆様から、非常に前向きなご意見をいただいた。先ごろ、消滅可能性都市ということで市町村の名前が発表されたが、県内で一番ひどいところでは4分の1程度に人口が減ってしまうということである。だからこそ、定住自立圏の考え方は非常に重要になってくると思うが、皆さんの意見をお聞きする中で、商業、農業、工業、そして観光をミックスして新しい事業を起こしていくことが必要なのではないだろうかと思った。地方創生は大きなチャンスであり、色々なメニューに応募できるようなサポートをお考えになられるといいのではないかと感じた。</li> </ul> <p><b>9 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本日いただいたご意見を参考にさせていただき、今後も定住自立圏の取組を進めていきたい。今後、会議の開催が必要となれば事務局から連絡させていただく。</li> </ul> <p><b>10 閉会（多可町副町長あいさつ）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本日は、長時間にわたり活発にご議論をいただき感謝を申し上げます。</li> <li>○ 多種多様な課題があるが、西脇市と多可町が手を携え、連携を深めながら取組を進めてまいりたいと思うので、今後ともご協力をよろしくお願いしたい。</li> </ul>
<p>問合せ先</p>	<p>西脇市ふるさと創造部企画政策課 電話：0795-22-3111（内線 225）</p>